



CVV な男たち・女たち

CVV 代表 古田 均(大阪公立大学)

1. はじめに

CVV とは Civil Veterans & Volunteers の略で、1996 年 4 月に関西在住の土木技術者により構想され、シニア技術者の土木分野での社会貢献を目指して継続的に活動している。その後、創設期メンバーの高齢化が進んだことから新たなメンバーを招集するとともに、2016 年度からは土木学会関西支部の支援を受けて活動している。CVV の活動は、土木技術の技術伝承、市民広報、若手育成の 3 つを柱とし、年一回の総会・ワークショップとともに 2 カ月に一回程度の定例会を開催しメンバー相互の情報共有、意見交換を図っている。また、メンバーの自主的提案により以下のような活動を展開している。

「浪速の名橋 50 選」を改訂するため調査を行い、その成果を活用・広報するため、大学生・高校生との橋めぐり、関西支部「ぶら・土木」や Osaka Metro「ぶらりウォーク」への協力等を実施した。また、名橋 50 選の追加調査や関西の土木遺産の調査・広報活動も実施している。

自治体等への支援活動として、神戸市「土木の学校」への支援、西宮市若手職員研修や近畿地方整備局「スペシャリスト技術会議」への講師派遣、地盤工学会関西支部主催若手セミナーへの協力なども行っている。

今回、CVV 活動の一つである技術伝承の一環として、現在のメンバーに呼びかけ、各人の経験談などを取りまとめ「CVV な男たち・女たち」としてまとめることとなった。このパンフレットは各人の原稿タイトルと概要を掲載したもので、2.コンテンツの概要文章右の QR コードにアクセスすれば、本文を読むことが出来る。なお、旧メンバーによる「CVV な男たち・女たち」も CVV のホームページに掲載されているので、興味のある方は 3.あとがき末尾の QR コードにアクセスして参照頂ければ幸いである。



大阪湾岸道路西伸部ルート海上見学会「第 5 防波堤上」にて (2017 年 11 月)

2. コンテンツ

1) 橋梁建設事業と関わって 40 数年

石原 靖弘 (正和設計(株))

土木業界の一分野である橋梁建設事業に 40 数年間関わってきた著者が、土木を志した経緯や橋梁メーカーで経験した設計・開発、生産工場、現場工事での様々な出来事をまとめたものである。また、学位や資格取得の有意性についても述べている。



2) 風来土木屋 土着土木人

今岡 亮司 (元 建設省)

広域に転勤を続けた風来の国家公務員であった筆者が、新潟県庁勤務となって知った地域に土着した土木技術者、地元住民たちの優しさ、優れた判断力、実行力などに出会いその人々が成した驚くほど長い住民による手掘りトンネル、災害回避、復興の振る舞いなどを紹介する。



3) 浪速の名橋 50 選の調査とその後の展開

祝 賢治 (元 三井造船(株))

名橋 50 選の改訂にあたって、CVV が行った 50 橋の現地踏査に参加し、著者は橋と地域の歴史・文化との密接な関係を知った。本文では調査中のエピソードを紹介し、調査で得た知見を学生、若手技術者、一般市民に伝えるべく展開した CVV の活動をまとめている。



4) 現場百遍 春夏秋冬

栗田 秀明 (元 (株)建設技術研究所)

建設コンサルタント入社後の約 10 年は数値解析・理論解析に明け暮れていたデスクワーカーの筆者が、工学博士の学位取得後に実施した四万十川の自然環境保全業務と河相論を専門とする先生に出会えたことをきっかけに、現場主義者に豹変した経緯などを紹介する。



5) 「CVV 的生活」のすすめ

黒山 泰弘 (元 大阪市)

市役所退職後の土木屋的自由人生活を「CVV 的生活」と名付けて CVV やその他の活動の中で実践している著者の思いを、土木学会の委員会でインタビューを受けるにあたって整理した文章を基に紹介している。



6) 私の歩んだ政令指定都市土木技術職員の足跡

齋木 亮一 (元 大阪市)

昭和 50 年に大阪市に奉職し、土木行政全般を担当し、退職後も土木にかかわり 40 数年勤めてきた筆者が、その業務を振り返り、辿った足跡を綴ることにより、政令市の土木技術職員の仕事がどの様なものか一部でも紹介出来ればと纏めている。



7) 発注者としての技術力(酒・麻雀・ゴルフ)

先本 勉(元 近畿建設協会)

国鉄に入社後、JR 移行時に建設省(現:国交省)に入省し、鉄道・道路の建設に携わった。この間、土木技術者として色々な人との関わりを振り返り、発注者としての技術力の原点とは何かについて記述している。



8) 思い出の橋脚と再会

清水 文夫(清水建設(株))

— 神戸ポートライナー駅舎震災復旧工事 —

建設会社に就職して橋梁基礎、開削工事を主に経験してきたが、その中で20代のころに新設工事に従事した橋梁基礎が震災で被災して、その復旧工事に携わることができた。少しでも早く交通を回復させるとともに同規模の地震にも耐える工事を完遂した記録である。



9) 実社会での経験と知見

鈴木 巖(元 阪神高速道路(株))

— 新人～中堅～管理職各階層で —

本文は、著者が阪神高速道路公団に入社以来、長きにわたる実務上の実体験をそれぞれの立場、新人・担当者、係長・補佐(中堅社員)、並びに管理職にて課題内容・真因は何か、課題解決に向けてどのように考え工夫し行動し解決を図ったのかを具体例を挙げて紹介している。



10) サムスン建設8年間の思い出

田中 洋((株)吉田組)

本文は、韓国のサムスン建設で、8年間勤務した経験と韓国人との交流を記述した。韓国国内の橋梁建設における現場視察の楽しい思い出や中東の高層ビル視察など、日本では経験できない機会が得られた。韓国の経済発展のスピードは速く、日韓の連携が今こそ肝要である。



11) 社会人ドクターへの挑戦と海外出張

夏秋 義広(日本橋梁建設協会)

本文は、長崎大学を卒業し橋梁鉄骨製作メーカーに就職した著者が35歳の時に社会人ドクターへ挑戦することになったいきさつと、その後の海外出張のことを、人生の転機となった出来事を振り返りながら記述している。



12) 都市高速道路と私

南荘 淳(元 阪神高速道路(株))

本文は、著者がなぜ都市高速道路に関わる技術者となったのか、子供時代に遡ってその経緯を紹介し、その後の人生を振り返ったものである。特に社会人となってからの半生は、その時代の社会を反映した業務を担当していたことが良くわかる。



13) 一高速道路技術者として

吉岡 正道 (元 日本道路公団)

日本道路公団に入社して以来、高速道路の建設や保全の仕事に従事し、現在は技術継承活動に取り組んでいる。本文では、高速道路技術者として経験したことや学んだことのほか、現役リタイア後の土木との係わり、土木技術への思いについて述べている。



3. おわりに

CVV の主な活動について「1. はじめに」で記されている。さらに、“小学生に土木の楽しさ・素晴らしさを知ってもらう”ことを目的に、大阪市立小学校の児童いきいき放課後事業（いわゆる学童保育）で、割りばしを用いる橋の模型づくりの指導を 2021 年度より始めている。

土木学会本部では「市民との協働」を実現するために市民団体とのインフラパートナー協定を進めており、CVV も 2021 年 3 月に関西支部を交えた三者で同意書（協定）を結び、全国の 16 団体とオンライン交流会を行った。土木学会関西支部では“土木を通じて地域に貢献している活動を顕彰し、土木に対する意識の高揚を図る”ことを目的に「地域活動賞」を 2020 年度に設け、CVV の活動も初年度に表彰された。

シニアのボランティア活動では活動後の飲み会を楽しみにしていると聞くことが多い。CVV でも定例会や現場調査の後に飲み会を楽しんでいる。その場でのコミュニケーションから新たな活動のアイデアが浮かぶこともある。CVV 活動に興味のある方には参加頂きたく、末尾の QR コードから CVV の HP にアクセス頂き、詳しい活動状況を参照されたい。

(2022 年 10 月、幹事長 川谷充郎 記)



淀川沿いの橋の現地調査 (2017 年 9 月)



CVV-HP の QR コード



土木遺産見学会「玉手橋」にて (2020 年 11 月)